

環境報告書 2022

2022/4/1-2023/3/31



焼津水産化学工業株式会社





目次

- ▶ I. トップメッセージ
- ▶ II. 環境理念・環境方針・環境活動推進体制・コーポレートガバナンス体制
- ▶ III. 会社概要・事業概要
- ▶ IV. 工場周辺の環境に対する取り組み
 - ・ばい煙測定　・騒音、振動調査　・臭気測定　・排水浄化の取り組み
- ▶ V. 地球温暖化防止への取り組み
 - ・工場での取り組み　・事業所での取り組み　・営業活動での取り組み
- ▶ VI. 環境コミュニケーション　CSR活動報告
- ▶ VII. 工場における物質とエネルギーの流れ
- ▶ VIII. 環境目標および実績
- ▶ IX. 当社全事業所のエネルギー使用について
- ▶ X. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

この環境報告書について

- ▶ 焼津水産化学工業グループは日本、東アジア、東南アジアを主要地域として、「調味料」「機能食品」「水産物」「その他」の4領域で事業を行っています。

当社グループは、天然素材の持つ無限の可能性を追求し、“おいしさと健康”を通して豊かな生活に貢献することを企業理念とし、ステークホルダー向けの「10の約束」の1つとして、「環境保全に努め、地球環境にやさしい活動を行う」ことを定めています。

この報告書は、当社グループのこのような環境に配慮した姿勢と、環境負荷の低減を図る活動の進捗状況を確認するとともに、ステークホルダーの皆さまにお知らせすることを目的とし、作成しました。

- ▶ 報告対象期間：2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)
- ▶ 記載対象範囲：
焼津水産化学工業株式会社 日本国内全事業所
※「工場における物質とエネルギーの流れ」および「環境目標および実績」は工場のみ
- ▶ 参照したガイドライン：
環境省「環境報告ガイドライン」(2012年度版)

企業理念

焼津水産化学工業グループは、
天然素材の持つ無限の可能性を追求し、
“おいしさと健康”を通して
豊かな生活に貢献します。

トップメッセージ

- ▶ 当社では、「価値創造の加速」を経営ビジョンとして、(1)安全・安心の向上、(2)国内事業（調味料、機能性）の強化、(3)海外展開の加速、(4)新たな事業分野の創出の4つの基本戦略へ経営資源を投入しております。
- ▶ 当社が天然素材を原料として製造し販売する製品は、人々の基本的な要求である“おいしさと健康”に正面から向き合った結果生まれたものです。今後も天然素材の無限の可能性を追求し、価値あるものづくりを続け、人々の豊かな生活に貢献するためには、社員一人一人が地球の恵みに感謝し、持続的な発展のための意識を強く持って活動していくことが求められます。
- ▶ 温暖化をはじめとする地球環境の変化は、天然素材を事業のベースに置いている当社にとって、強く意識しなければならない現象であります。事業活動に伴うさまざまな環境への負荷を真剣に受け止め、全社一丸となって環境教育、省エネルギー・省資源、廃棄物の削減、リサイクルの推進活動に努めてまいります。
- ▶ 2022年度は、生産の効率化を進めたことから、エネルギー使用量、CO₂排出量、およびそれぞれの原単位が減少した一方、水使用量の多い機能性素材生産量が増えたことから水使用量とその原単位、および排水量が増加しました。2022年度の環境目標のうち、「水使用量原単位 35m³/t以下」は達成できませんでしたが、「CO₂排出量原単位 前年比1%削減」および「廃棄物のリサイクル率 96%以上」については、目標値を達成しました。
- ▶ 次年度も生産体制の見直しや業務の効率化を進め、生産性の向上により環境目標を達成すべく取り組みを強化してまいります。



代表取締役社長

山田潤

環境理念

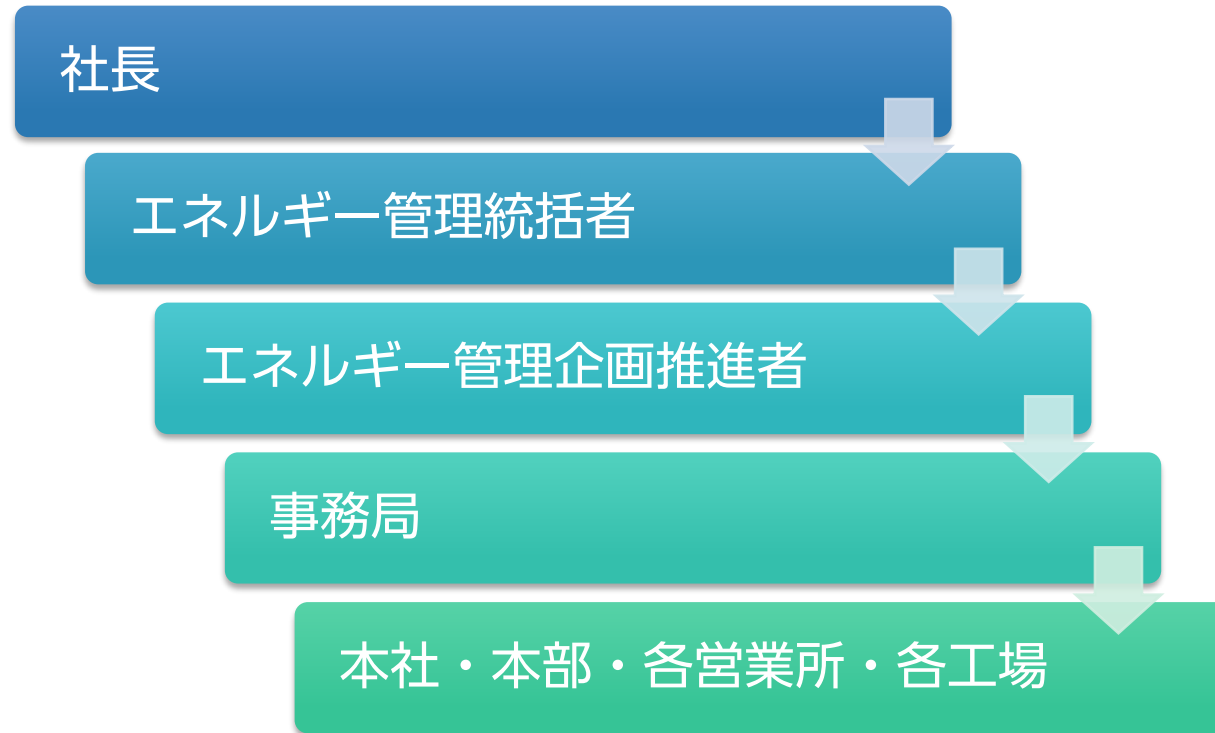
- ▶ すべての企業活動において環境保全に努め、資源やエネルギーの有効活用など、地球にやさしい取り組みを積極的に行います。

環境方針

- ▶ 法令を順守するとともに、環境マネジメントシステムを構築し、自主的な目標を設定して環境問題に取り組み、持続的な改善に努めます。
- ▶ 全ての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物排出抑制、リサイクルを推進します。
- ▶ 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- ▶ 社員一人ひとりの環境教育に努め、環境を大切にする企業風土をつくります。
- ▶ 環境情報を開示し、協力会社、社会とのコミュニケーションを推進します。

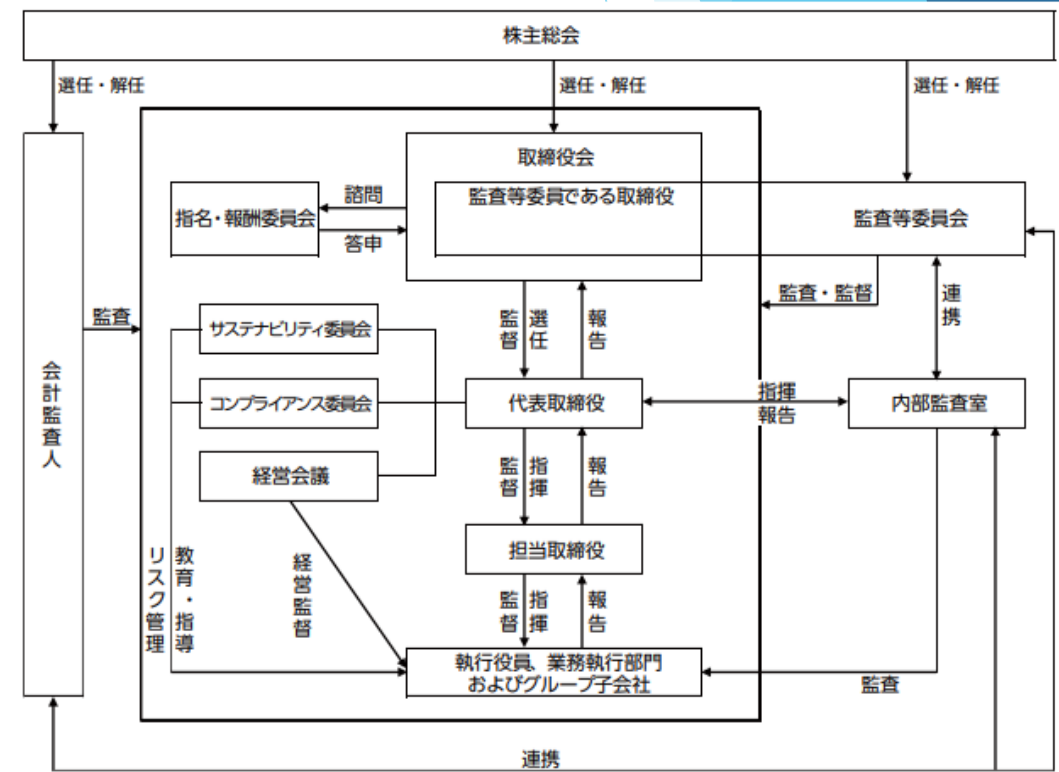
環境活動推進体制

- ▶ 当社のエネルギー管理体制は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)に基づき、社長をトップとした組織で運営・管理しています。



コーポレートガバナンス体制 およびリスク管理体制

- ▶ 当社はステークホルダーからの信頼を高め、企業価値を最大化するため、子会社を含むコーポレートガバナンスの強化・充実を経営の最重要課題として位置付けています。
- ▶ 取締役会では子会社を含む経営計画の監督を実施し、監査等委員会は、取締役会はもとより内部監査室、会計監査人との連携により、実効性のある監査・監督を実施しています。
- ▶ リスクについては、取締役会で審議するだけでなく、全取締役と管理職で構成されるサステナビリティ委員会を設置し、当社グループ全体で発生が予想されるサステナビリティ関連を含む各種リスク及び機会を特定し、必要な施策を決定するとともに、その遂行状況のモニタリングを行います。また、発生したクライシスへの対応についての報告、対応策の決定等、リスク管理上の重要な問題を審議しています。



会社概要

- ▶ 会社名 焼津水産化学工業株式会社
Yaizu Suisankagaku Industry Co.,Ltd
- ▶ 本社 〒425-8570 静岡県焼津市小川新町五丁目8番13号
- ▶ 主な事業所 静岡本部、焼津本社、東京R&Dラボ
東京営業所、大阪営業所、中部営業所、九州営業所
バンコク事務所
焼津・団地工場、大東工場、掛川工場
- ▶ 創業 1959年
- ▶ 資本金 36億1,700万円
- ▶ 従業員 190名(単体)、217名(連結)

(2023年3月現在)



事業概要

- ▶ 天然調味料、機能性食品の製造・販売
- ▶ 水産物事業、その他食品の製造・販売
- ▶ 当社は1959年に、魚の残渣から飼料・肥料の製造および肝油製造を目的に設立されました。まもなくエキス調味料の製造に方針を転換、天然調味料や乾燥食品へと製品の幅を広げていきました。
- ▶ 1980年以降には機能性素材の開発を本格的に開始、当時、肥料化するしか用途のなかったカニ殻からキチン、キトサンを精製し、販売を始めました。これを出発点にキチンオリゴ糖、N-アセチルグルコサミンを製造、この技術を活かして海洋性のアンセリン、フコースなどの機能性新素材を世に送り出しています。





冷凍食品
Frozen Foods

01 液体調味料
Liquid Seasonings

魚介エキス
• 鰹節・昆布エキス
• 鰹干しエキス
• カニ・エビエキス

畜肉・野菜エキス
• チキンエキス
• ポークエキス
• 野菜エキス
• 椎茸エキス

調味オイル
• 魚介オイル
• 香味野菜オイル

即席麺
Instant noodles

外食産業
Restaurants

風味調味料
Powdered soup stock

02 粉体調味料
Powdered Seasonings

エキスパウダー
• 魚介エキスパウダー
• 畜肉エキスパウダー
• 粉末醤油

果汁パウダー
• オレンジ
• ストロベリー
• パナナ

節類粉末
• 鰹節
• 煮干

カニかまぼこ
Imitation crab

スナック
Snacks

スイーツ
Sweets

ふりかけ
Furikake
(Seasoning mix for rice)

機能性飲料
Nutritious drinks

肥料
Fertilizer

03 機能性素材
Functional Materials

- N-アセチルグルコサミン
- アンゼリン
- キチン
- キチンオリゴ糖
- キトサン
- キトサンオリゴ糖
- グルコサミン
- フィッシュコラーゲン
- コンドロイチン硫酸
- フコイダン
- テアフラビン

サプリメント
Dietary supplements

04 B to C
Business to Consumer

化粧品
Cosmetics

- 食品
- 化粧品
- 農業用資材
- トイレタリー

国内の食品メーカーをはじめ、健康・医療・美容関連企業が、当社の調味料や機能性素材を原材料にしてさまざまな商品を製造し、市場に送り出しています。

このイラストは、その商品市場のアウトラインです。

このように当社の調味料や乾燥食品からは、だしの素、めん類のつゆ、即席めん、冷凍食品、カニかまぼこ、スイーツ類、スナック菓子、ふりかけ、お茶漬けなど、実に幅広い商品が生まれます。

機能性素材からは各種サプリメントや機能性飲料、化粧品などが作られています。

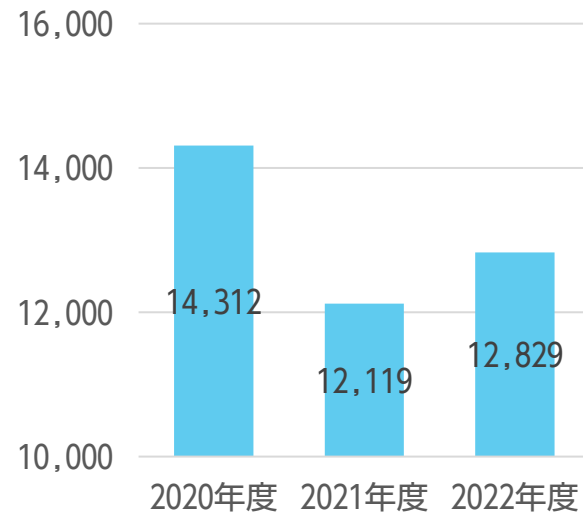
- ▶ 2001年には東京証券取引所 市場第1部へ上場しました。
2022年の市場区分見直しに伴い、現在はスタンダード市場に区分変更しています。
- ▶ 2018年には主力の掛川工場にて国際的な食品安全システム認証であるFSSC22000を取得しました。2022年には残る焼津・団地工場、大東工場でも同認証を取得しており、更なる顧客満足と食品安全の確保に注力しています。
(2002年にISO9001の認証を全社取得しましたが、FSSC22000認証取得により2023年2月をもって自主返上しています)
- ▶ 現在、魚介類を原料とする天然調味料のリーディングカンパニーであり、健康や美容に関わる機能性素材の研究・製造でも高い評価を得ています。
当社は研究開発型企业としての道を更に力強く前進します。

財務報告

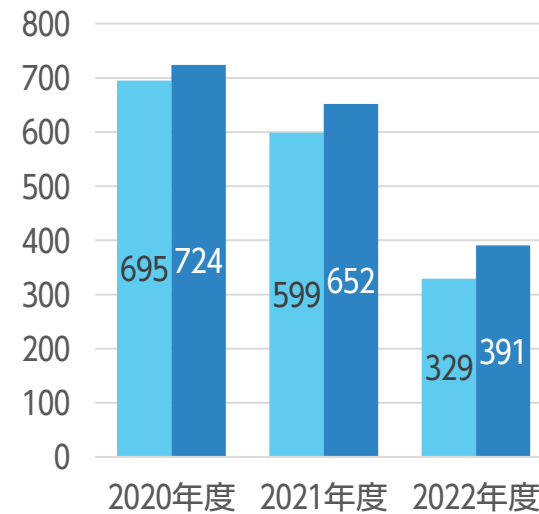
損益概要

※単位は百万円

連結売上高

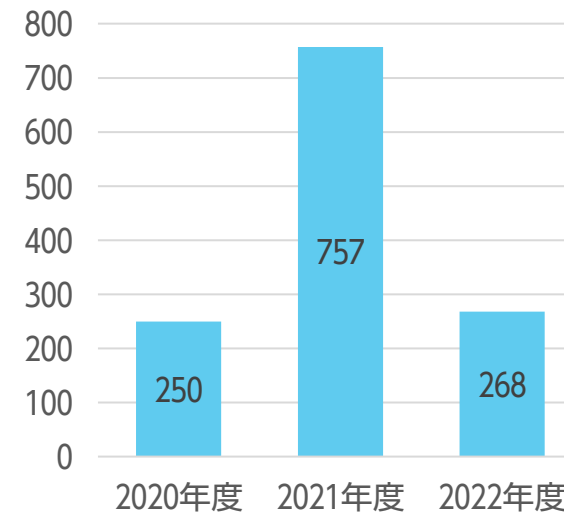


連結営業利益 連結経常利益



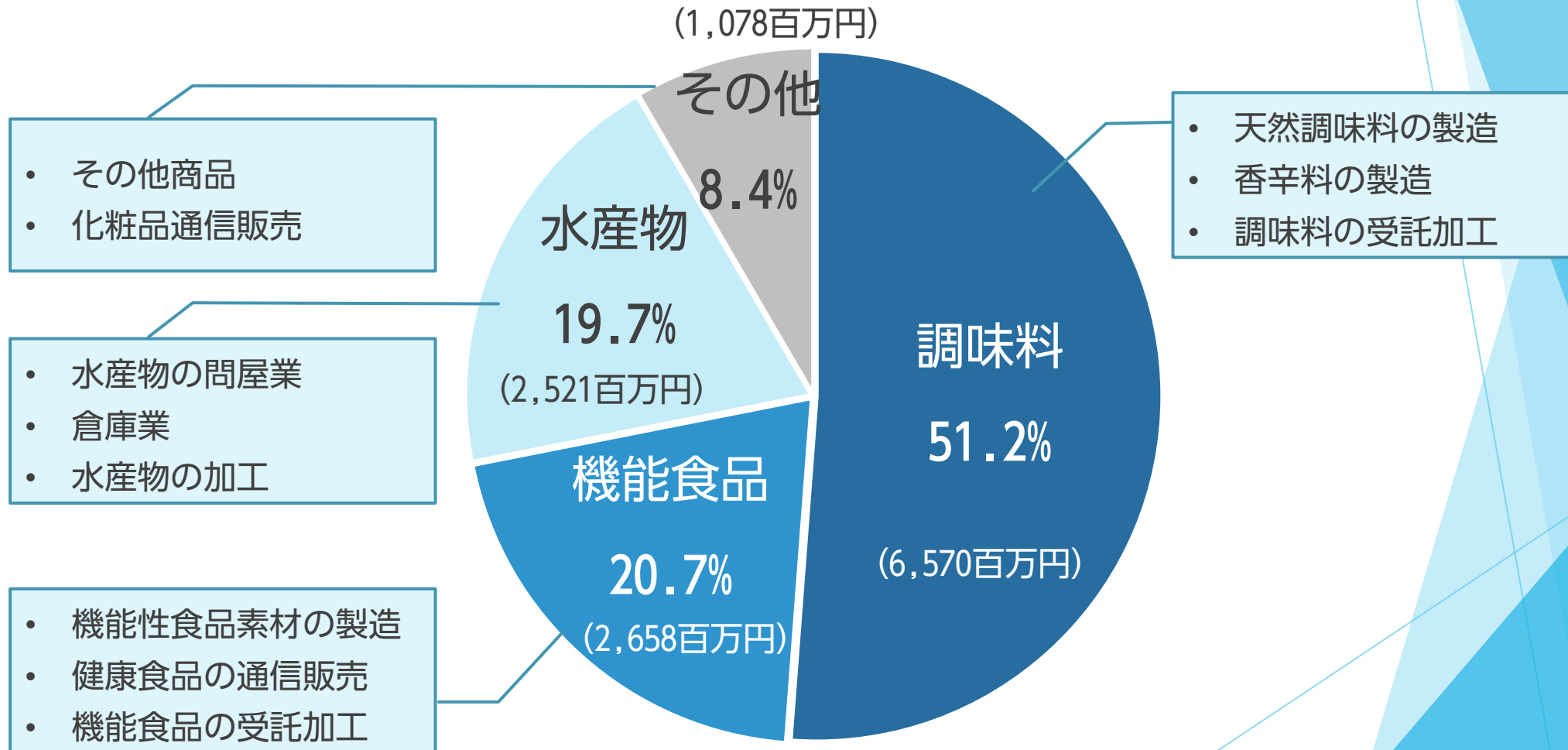
■ 連結営業利益 ■ 連結経常利益

当期純利益



財務報告

2022年度セグメント別売上高



工場周辺の環境に対する取組

当社の掛川工場、大東工場の2工場では、工場敷地の境界で定期的に臭気、騒音、振動の測定をしています。騒音・振動の測定結果については、掛川市に報告しています。
全項目について、2022年度も問題のないことが確認されています。

▶ ばい煙測定 <外部業者に委託>

大気汚染防止法に基づき、年2回実施しています。
当社は全ての工場で、ボイラー燃料を重油からLNGへ転換しており、硫黄酸化物の排出量がほぼゼロとなっています。

▶ 騒音・振動調査

騒音・振動規制法に基づき、年2回実施しています。
検査結果は市役所に提出しています。

▶ 臭気測定 <外部業者に委託>

掛川市との協定に基づき、年1回実施しています。



▶ 排水浄化の取り組み

当社は全工場で、年間約20万m³の水を排出しています。そのうち、焼津・団地工場では、水産加工団地の共同排水処理施設に委託処理していますが、大東工場、掛川工場では自社設備で排水を浄化して河川に放流しています。当社の処理施設では、有機物を微生物によって分解する「活性汚泥法」によって約2日間かけて浄化しています。

大東工場の排水処理施設では、空気を微細な穴に通すことで細かい泡を作る「超微細気泡散気装置」を用い、排水の中の酸素量を増やすことで微生物を活性化し、浄化効果を高めています。また、牡蠣の殻を使って浄化するシステムも取り入れています。これは、微生物が牡蠣の殻にある細かい穴に棲みつきやすい性質を利用したものです。

掛川工場の排水処理施設では、臭気対策として処理場全体をコンクリートで覆っています。さらに、調整層、曝気槽の一部は暗渠構造となっており、臭気の大部分を抑えています。

浄化された水は、日々状態を確認して放流しており、月1回はpH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、大腸菌群など6項目を法的な基準に準じて、外部機関に委託し、放流水検査を行っています。さらに、年に1回は掛川市協定に基づき、外部機関に委託し、43項目の検査を実施しています。

浄化処理で発生する余分な汚泥については、協力業者に委託して肥料化し、自然のサイクルに戻しています。



掛川工場排水処理設備



大東工場排水処理設備

地球温暖化防止への取り組み

- ▶ 1. 全社的な取り組み
 - ・ 中部電力内の事業所に「CO₂フリー電気」を導入しました。
 - ・ オフィスにおける省エネルギーを一層強化するために、2022年度は5月から10月までクールビズを、11月から3月までウォームビズを実施しました。また、各事業所での休憩時間の照明OFFにより消費電力削減に努めています。

- ▶ 2. 工場での取り組み
 - ・ 大東工場に太陽光発電システムの導入を進めています。
 - ・ ガソリンやLPガスを動力源とするフォークリフトを全廃し、2023年3月末現在で、全25台が充電式リフトとなっています。

- ▶ 3. 営業活動等での取り組み
 - ・ 低燃費、低排出ガスのエコカー導入を積極的に進めています。2023年3月末時点で使用している乗用車28台のうち、19台がハイブリッド車、3台が低燃費車です。

環境コミュニケーション・CSR活動報告

- ① 本社のある焼津市で、定期的に地域清掃活動（焼津の海岸）を実施しています。
2022年度は11月に実施し、20名を超える社員が参加しました。



- ② 2020年から本社のある焼津市小川地区の学童保育支援の取り組みを実施しています。
2022年度も4か所の学童保育所に飲料を提供しました。

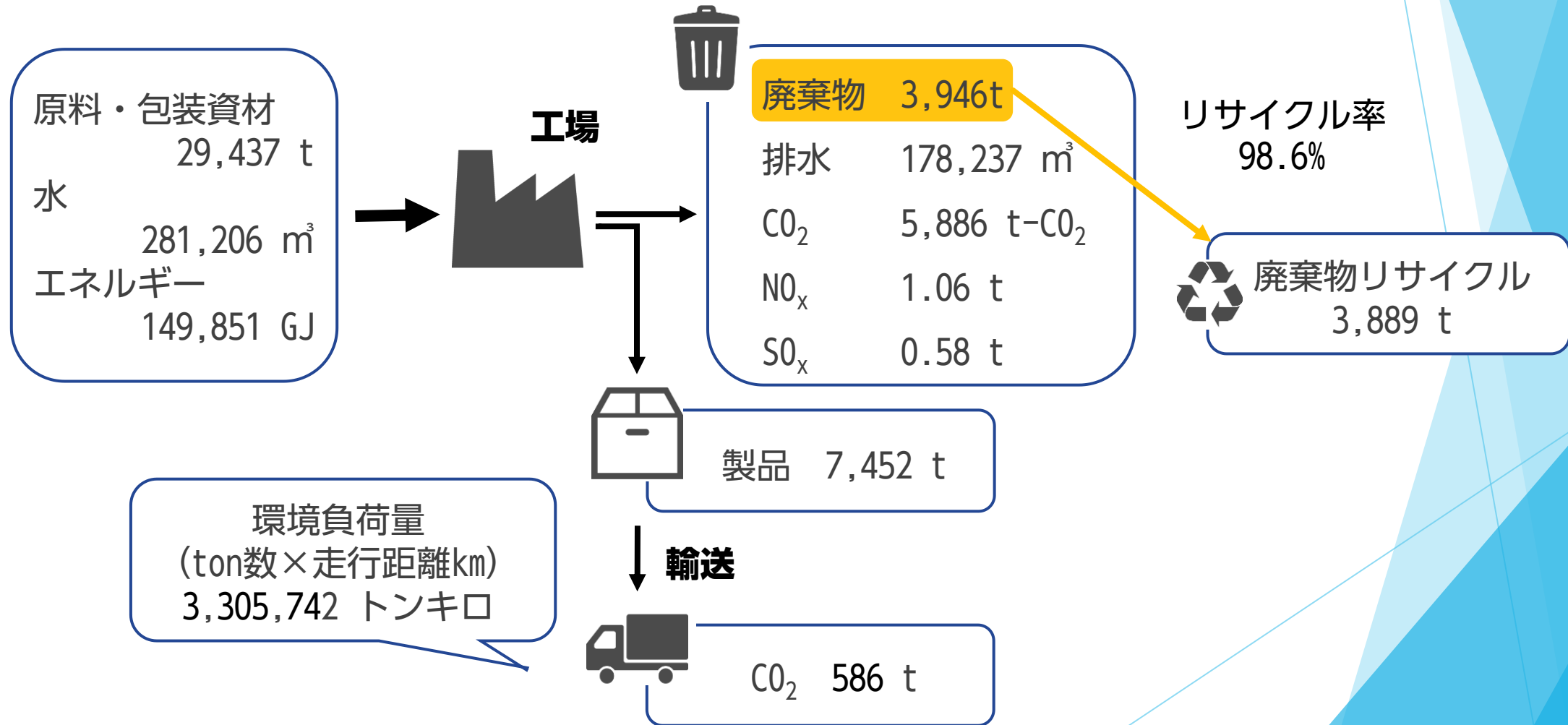


- ③ これからの未来を支える子供たちのための取り組みとして、2022年9月に静岡県立こども病院へ「紙アクアリウム」を寄贈しました。

同アプリは子供たちが描いた絵がモニターの中で動き出すアプリで、子供たちに笑顔が増えたとの謝辞を頂きました。



工場における物質とエネルギーの流れ



環境目標および実績

- ▶ 2022年度は、効率的な生産のためにロットサイズの拡大を進めたため、エネルギー使用量および同原単位が減少しました。また、中部電力のCO₂フリー電力に切り替えたため、CO₂排出量および同原単位は大きく減少しました。

一方、水使用量の多い機能性素材の生産が増加したため、水使用量、排水量は増加しました。

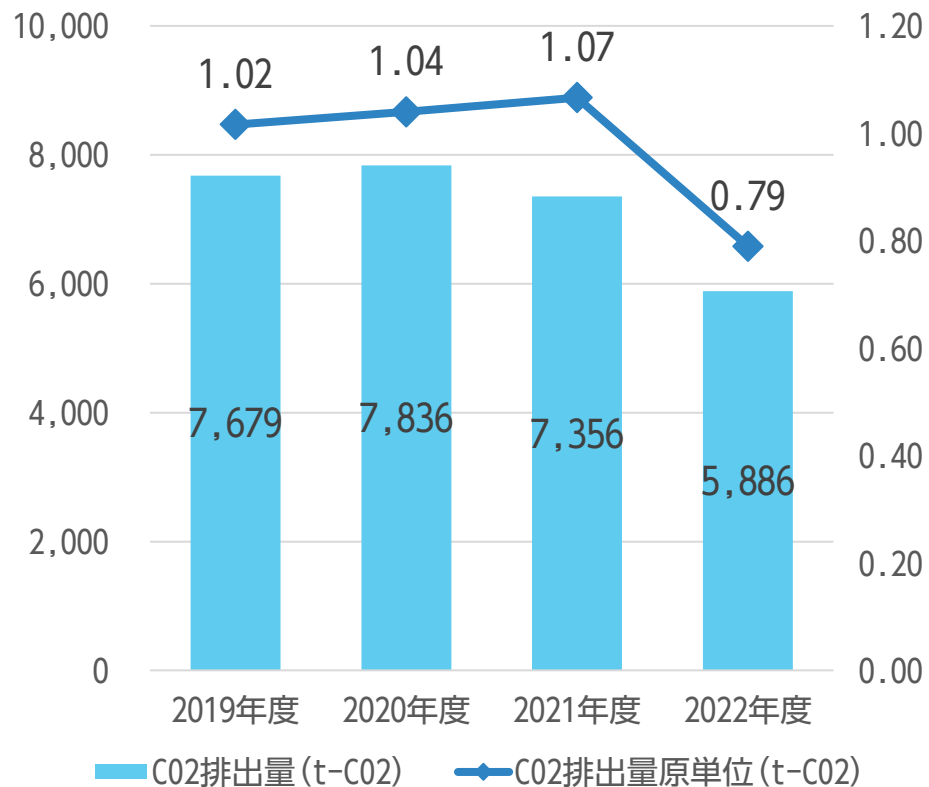
- ▶ 2022年度に設定しました環境目標のうち、「CO₂排出量原単位 前年比1%削減」、
「廃棄物のリサイクル率 90%以上」については達成となりました。

一方、「水使用量原単位 35m³/t以下」については不達成となりました。

※ 原単位とは製品トンあたりの使用量・排出量を表す

環境目標および実績

環境目標 1 : CO₂排出量原単位 前年比1%削減



CO₂排出量は、CO₂フリー電力の導入に加え、効率的な生産のためにロットサイズの拡大を進めたため、エネルギー使用量が減少し、前年と比較し1,470t-CO₂ (20.0%) 減少し、5,886t-CO₂となりました。

原単位については、CO₂排出量原単位は前年と比較し、0.28t-CO₂ (25.9%) 増加し、0.79t-CO₂となりました。

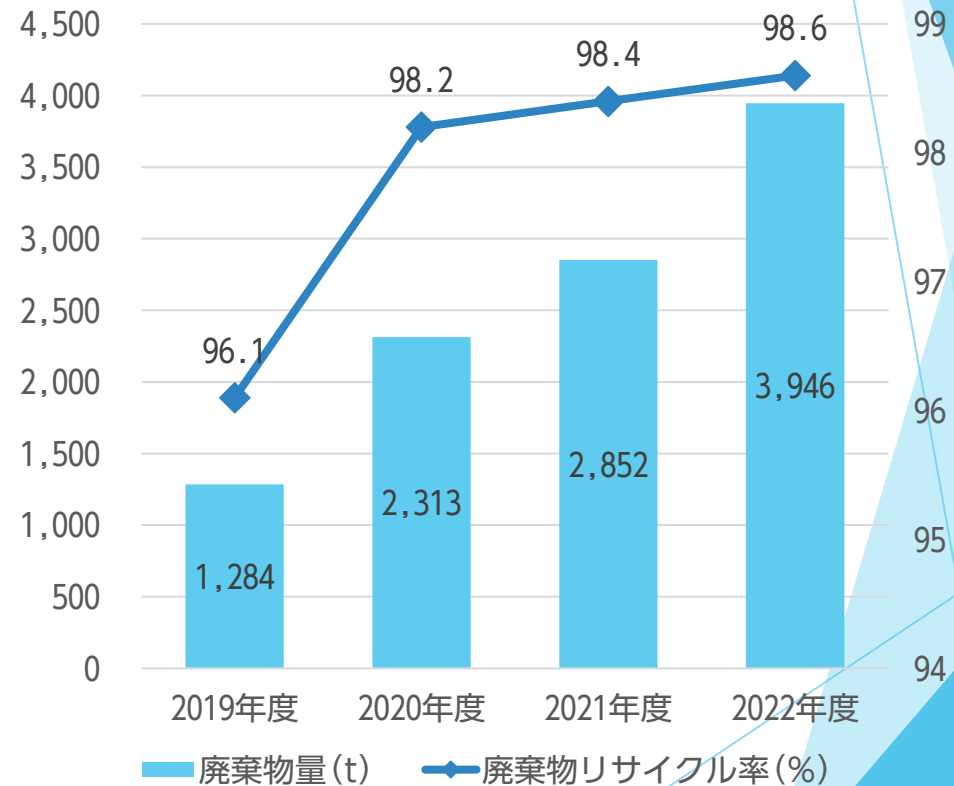
これにより、前年比1%削減という2022年度の環境目標は達成となりました。

環境目標および実績

環境目標2：廃棄物のリサイクル率96%以上

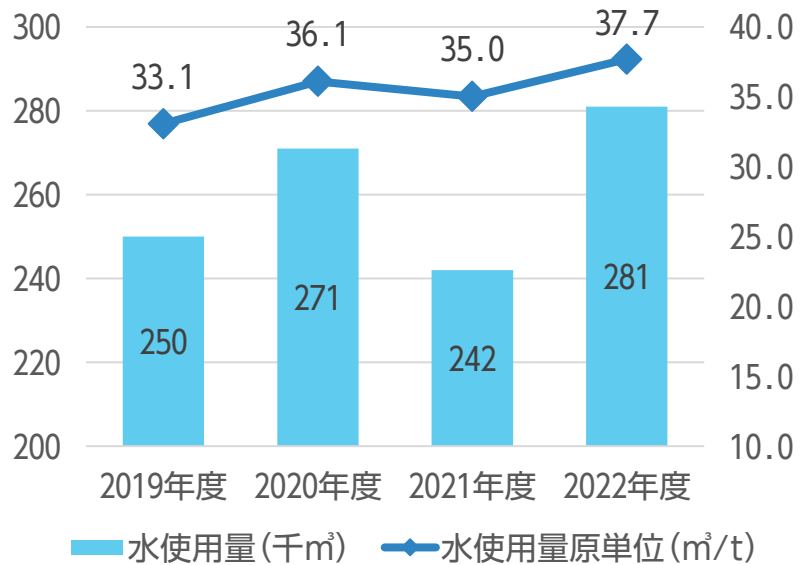
2022年度の廃棄物量は、製造数量の増加により、前年比1,096t (23.3%) 増加し、3,946tとなりましたが、そのうち98.6%の3,889tがリサイクルされています。

リサイクル率は0.2%増加し98.6%となったことから、環境目標である96%以上をクリアした状態を引き続き維持できました。



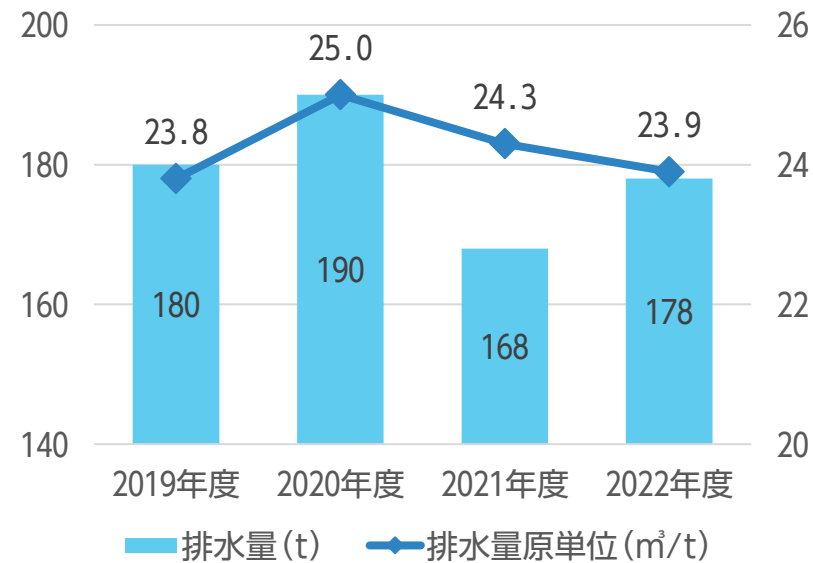
環境目標および実績

環境目標3：水使用原単位 35m³/t以下



水使用量は、水使用量の多い機能性素材の生産量が増加したため、前年と比較し39千m³(16.4%)増加し、水使用量原単位についても2.7m³/t(7.7%)増加し、それぞれ281千m³、37.7m³/tとなりました。

2022年度の水使用原単位は37.7m³/tとなり、環境目標を達成できませんでした。



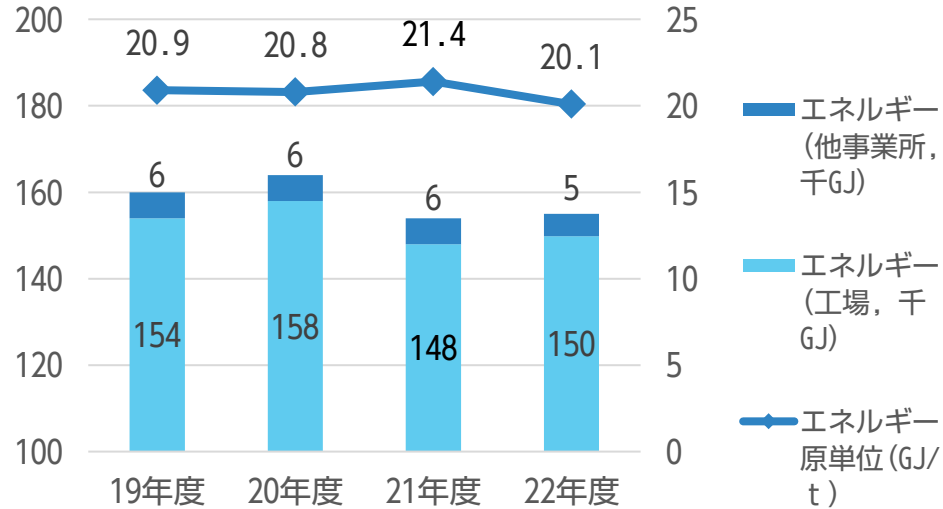
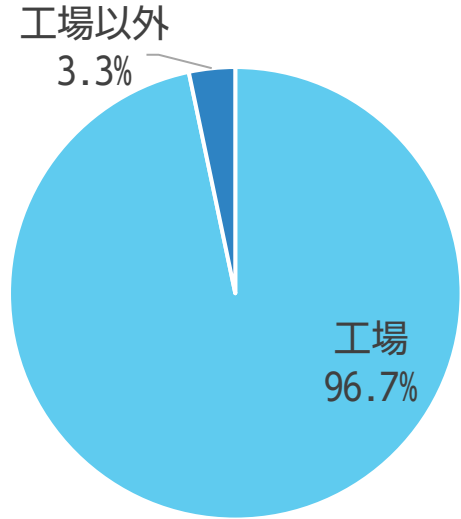
排水量は、水使用量が増加したため、前年と比較し10千m³(6.4%)増加し、178m³となりました。排水量原単位については、0.4m³/t(1.5%)減少し、23.9m³/tとなりました。

2023年度の環境目標

1. CO₂排出量原単位 前年比1%削減
2. 廃棄物リサイクル率96%以上
3. 水使用原単位 35m³/t以下

当社事業所のエネルギー使用について

全事業所のエネルギー使用量とその推移

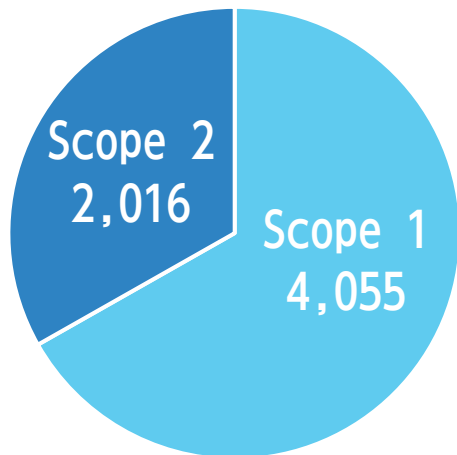


▶ 当社全事業所の2022年度のエネルギー使用量は155千GJで、その約96.7%を工場で使用しています。

▶ 当社全事業所の2022年度のCO₂排出量 (Scope 1および2) は6,071t-CO₂で、その2/3がScope 1でした。

全事業所のCO₂排出の内訳

(単位：t-CO₂)



Scope 3については、現状では製品の出荷・輸送にかかわるカテゴリ9の一部のみ算出しています。

環境関連法規への違反・訴訟の有無

- ▶ 2022年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係当局による違反の指摘および訴訟は過去3年間ありませんでした。

	2020年度	2021年度	2022年度
環境に関する法令違反	なし	なし	なし
環境に関する訴訟・罰金等	なし	なし	なし

修正履歴

- ▶ 2023年12月22日 新規発行



焼津水産化学工業株式会社

静岡県焼津市小川新町5-8-13

TEL：054-202-6030

FAX：054-202-6031

本環境報告書は2023年12月22日に発行しました。
当社ウェブサイトから環境報告書PDFを
ダウンロードできます。

URL：<https://www.yskf.jp/company/csr.html>



見やすく読みまちがいにくい
ユニバーサルデザインフォントを使用しています。